

第3回フォーラム「京都の景観について考える～むかし、京都には町なみがありました。いま?～」

人の心が培う美しい町



パネル討論に先立って、横笛で「鶴」を披露する演奏家の藤倉名生さん



松浦晃一郎さん

第3回フォーラム「京都の景観について考える～むかし、京都には町なみがありました。いま?～」が京都市中京区の立命館大朱雀キャンパスであった。世界遺産「古都京都の文化財」の17社寺・城や行政、大学などで活動する「明日の京都 文化遺産プラットフォーム」が主催した。松浦晃一郎会長は「社寺・城だけでなく、周辺地域の景観も含めて保全していくことが私たちの務めです」とあいさつ。パネル討論では、京都学園大教授の森本幸裕さん、京都市長の門川大作さん、宗教学者の山折哲雄さんが、自然を生かした先人の知恵や現代の法律などを取りあげ、未来に引き継ぐ景観について語り合った。

雨利用した先人の知恵 森本

パネル討論
 化遺産に登録され、来年で20周年を迎えます。世界的な歴史都市である京都の景観について、それらの視点からお話を伺います。

松浦 古都京都の文化財がユネスコ(国連教育科学文化機関)の世界文



森本幸裕さん



門川大作さん

京らしきで季節が身近 門川

復活が期待できます。多彩な植物を植える雨庭は景観の向上にもつながるため、世界中で導入が増えているようにです。私は景観生態学と環境デザインが専門で、昨年、15周年を迎えた京都駅ビルの雨庭づくりに協力しました。雨水と地下

復活か期待できます。多彩な植物を植える雨庭は景観の向上にもつながるため、世界中で導入が増えているようにです。私は景観生態学と環境デザインが専門で、昨年、15周年を迎えた京都駅ビルの雨庭づくりに協力しました。雨水と地下



閉会のあいさつをする副会長の村井康彦さん。「3年目を迎えた同プラットフォームも実行力を持ってまい進したい」

在は鳥丸通の中央分離帯にもアヤキを植えているところ。優れた景観を維持・継承するため、京都市は「景観法」を政府に提案。2004年6月に制定されました。幅広い専門家や市民の方々と景観審議会をつくり、議論を重ね、07年3月に京都市の新景観政策を決定。建築物の高さ制限強化、建物などのデザイン規制、眺望景観や借景の保全、屋外広告物の規制、京町家など歴史的建造物の保全と再生、不適格建築への建て替え支援の6政策を進めています。来年8月までに屋上看板を全て撤去するなど、事業者の方々に大変な負担をお願いしていますが、京都の景観を守るため、ご理解いただければ幸いです。

- パネリスト**
 京都学園大教授 森本幸裕さん
 京都市長 門川大作さん
 宗教学者 山折哲雄さん
■コーディネーター
 会長 松浦晃一郎さん



京都の景観について討論するパネリスト(10月20日、京都市中京区・立命館大朱雀キャンパスホール)＝撮影・梶田茂樹

ほこらや地蔵守る姿も 山折

山折 私は下京区在住で、よく近所を散歩している町は、日本広しといえども、あまり例がないように思います。中でも多く見られるお地蔵さん、「災害に襲われたとき身代わりになって守ってくたさった」という伝承が数多く残るほか、地蔵盆で子どもを大事にする考え方が根付くなど、

精神性育む山や自然

日本列島を上空から眺めると、大海原に森と山が連なる緑の島が浮かび、少し陸に近づくと田畑の風景、さらに視点を下げると工場

基調講演

「風土と景観」

山折哲雄さん

のです。京都は東山・北山・西山に囲まれ、田園が町の周りに広がり、中心に都市が形成されています。日本の3層構造の典型的な縮図といえるでしょう。



山折哲雄さん

突堤から眺めた波しぎ越しの富位置付けられています。比叡山は土山は、まるで葛飾北斎の描く富とひわけ温度が高く、多くの修行者三十三景そのものでした。富者が挫折し、病気に罹り、この世土山を画面に描き、手前を去る中、耐え抜いて育ったのが、山折さん。そのように描き、手前を去る中、耐え抜いて育ったのが、山折さん。そのように描き、手前を去る中、耐え抜いて育ったのが、山折さん。

と考えると、私がかつて住んでいたパリの町では、世界遺産の建造物が法律で保全される一方、道路は汚く、ごみが散乱しています。その点、日本人のモラルや道徳観は驚くべきです。京都三山と比叡山に囲まれた環境や、千年の歴史を誇る建造物とともに、日本人・京都人の心も維持継承していきたいものです。

門川 京都に伝わる地蔵盆、家庭の京料理、五花街の舞妓さんや芸妓さんなどは国の文化財には指定されていませんが、次世代に残していくべき重要な文化です。京都市では無形文化財を市民から募り、みんなで継承する仕組みをつくらうと検討しています。京都には世界遺産をはじめ、芸術や文化、神仏への信仰、伝統産業、先端産業、大学などが日常の生活とともにあります。文化財を守るだけでなく、市民が生き生きと活気ある生活を送り、経済的にも活力ある京都をつくることも大切です。